

平成20年度伊都国歴史博物館秋季特別展

# 玄界灘を制したたもの

伊都国いとこく王おうと宗像君むねむねのかたのみきみ

—海人を支配した王と豪族たちの軌跡—

伊都国歴史博物館

平成20年度伊都国歴史博物館秋季特別展

# 玄界灘を制したもの

伊都国<sup>いとこく</sup>王<sup>おう</sup>と宗像君<sup>むなかたのみきみ</sup>

—海人を支配した王と豪族たちの軌跡—

# 目次

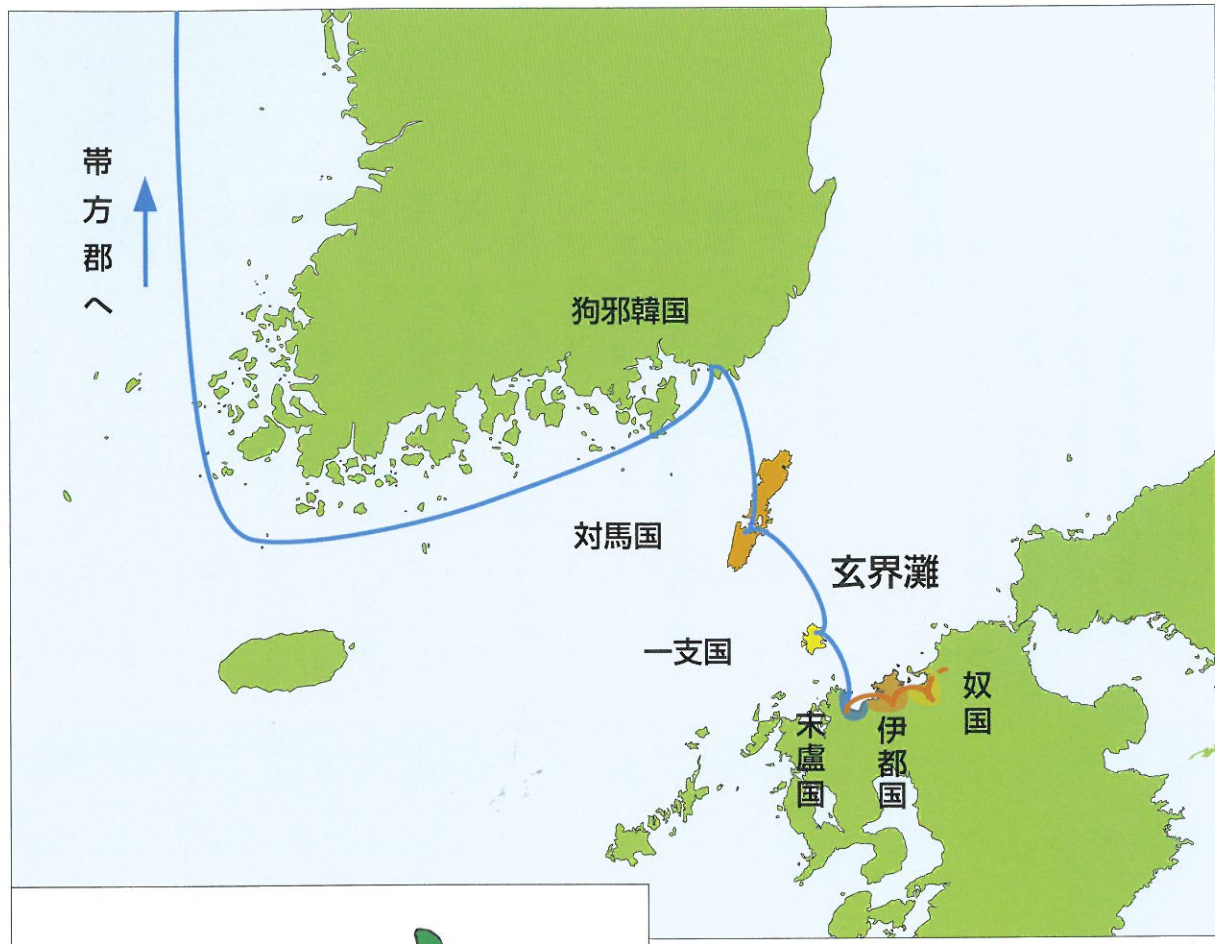
I 対外交渉の始まりと展開	
1 弥生時代の国際交流拠点〈伊都国〉	4
2 交易の拡散	8
II 王権による交易と沖ノ島祭祀	
1 百済との国交締結	10
2 沖ノ島祭祀の変遷	12
III 古墳が語る首長の姿と対外交渉	
1 宗像の首長	16
2 糸島の首長	24
IV 豪族の飛躍〈宗像君と肥君〉	
1 磐井の乱後の様相	32
2 宗像君の躍進	34
3 肥君の進出と活躍	38
・ 関連年表	45
特論	
宗像・沖ノ島における古代の祭祀と豪族	46
西谷 正(伊都国歴史博物館名誉館長)	
沖ノ島古代祭祀と対外交渉	50
小田富士雄(福岡大学名誉教授)	
図版一覧	56
展示品一覧	58
参考文献	60
協力者	61

## 凡例

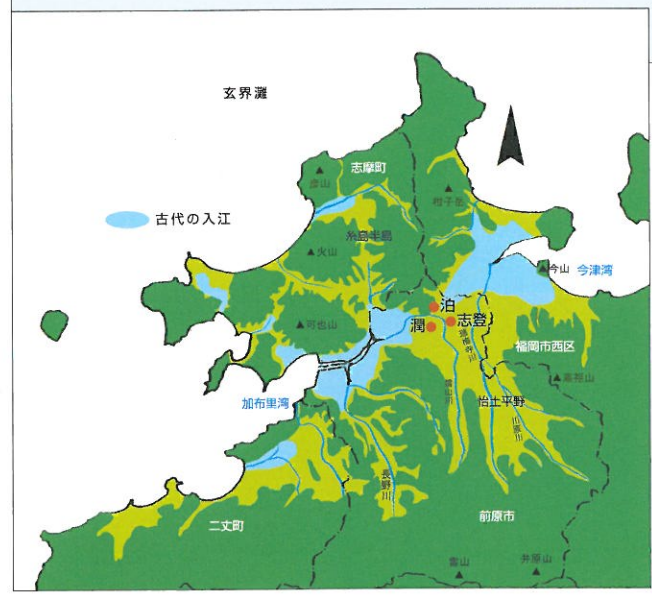
1. 本書は、伊都国歴史博物館にて平成二十年十月十一日から十一月二四日まで開催の秋季特別展「玄界灘を制したもの―伊都国王と宗像君―」の展示解説図録である。
2. 本書と展示構成は一部異なるところがある。また、掲載写真は展示資料のすべてではなく、一部参考資料を含む。
3. 本書は岡部裕俊・江野道和(当博物館学芸員)の協力を得て、榑崎直子が執筆・編集を行った。
4. 特論は西谷正氏・小田富士雄氏に玉稿を賜った。また、長洋一氏(元西南学院大学教授)にはコラムの一部に特別寄稿いただくとともに、図録執筆にあたり多くのご助言を賜った。
5. 伊都国歴史博物館所蔵の写真の一部は株式会社文化財情報研究所の撮影による。
6. 本特別展の開催にあたり、所蔵者をはじめ多くの機関・個人にご協力を賜った。ご芳名を巻末に記し深く感謝申し上げます。
7. 会期中に以下のとおり関連事業を実施する。  
十月十九日(日)名誉館長講座「玄界灘・人と海の物語」他  
講師：西谷 正氏  
十一月二日(日)記念講演会「沖ノ島古代祭祀と対外交渉」  
講師：小田富士雄氏

# I 対外交渉の始まりと展開

## 1 弥生時代の国際交流拠点〜伊都国〜



4-1 3世紀頃の東アジア



4-2 古代の糸島の地形  
糸島半島は、西は唐津湾、東は博多湾、北は玄界灘を望む重要地域であった。

### 地形に恵まれた糸島

玄界灘に向かって北へ突き出し、あたかも龍の首のような糸島半島。かつては東西から入江が湾入しており、現在の前原市潤や志登あたりが糸島半島と怡土平野を結ぶ唯一の陸橋部で、天然の良港としての内湾が東西に存在していた。

怡土平野の背後には脊振山系が、その東には高祖山から派生する山がそびえている。東・南・西をこれら山系に囲まれた自然の要害の地でありながら、北は海に向かって開放される地形は、先進文化にいち早く触れることができる地でもあった。

常松幹雄氏は、糸島地方の旧地形が、漢代に流行した博山炉（神仙が住む山を人物や獣が支えるデザイン）の香炉に似ていることから、風水思想との結びつきの可能性を指摘している。

中国・朝鮮半島との対外交渉において有利となる、これら様々な要素・条件を基盤とし、列島内外の人物の交流拠点としての役割を担っていたものと推測される。



5-1 玄界灘に突き出た糸島半島(西から)



5-2 伊都国王墓(平原王墓)出土品

平原王墓

三雲・井原遺跡から西へ約1.5kmの菅根丘陵北端に位置する弥生時代終末期の伊都国王墓。副葬された銅鏡は40面を数え、超大型内行花文鏡は直径46.5cmで世界最大規模を誇る。交易を通して様々な文化を先取してきた伊都国王の権力の大きさを示している。

王都と一大率

弥生時代の国際交易拠点「伊都国」。

玄界灘を介した交易ルートは、まずは伊都国王が掌握していた。その根底には、権力者が抱いた中国文化への羨望と、自国での確固たる地位確立などの思いがあったのであろう。

伊都国の国邑すなわち王都は、瑞梅寺川と川原川に挟まれた怡土平野中心部に位置する三雲・井原遺跡内にある。前漢鏡三五面や金銅製四葉座飾金貝など漢系の宝器を数多く副葬した三雲南小路王墓(弥生時代中期末)や後漢鏡二一面を副葬した井原鍵溝王墓(弥生時代後期)の歴代王墓を擁し、集落内からのまとまった楽浪土器の出土が楽浪系漢人の滞在を彷彿とさせ、その様相はまさに王都にふさわしい。中国の歴史書「魏志倭人伝」が「伊都国には女王国に統属された歴代王が君臨し、魏から派遣された帯方郡の使いが常駐した」と伝える記述そのものである。

また湾の近くには女王国と連携し諸国を監察する「一大率」なるものが置かれ、使者は必ずここで文書や賜物が女王国へ間違いなく届けられるようチェックを受けたという。このことこそ、三世紀に至るまで伊都国が交易の中枢であったことを物語っている。

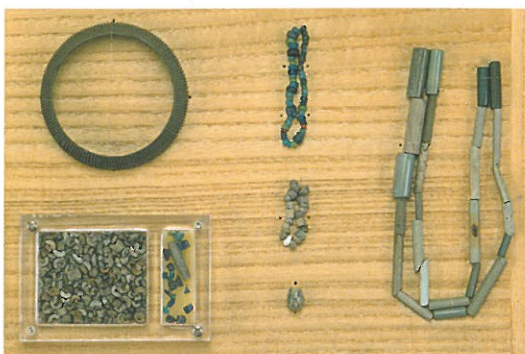
岩上  
祭祀

(4世紀後半～5世紀中頃)

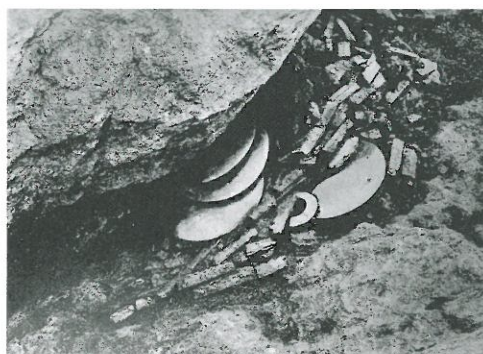


12-1 沖ノ島21号遺跡

割石を方形状に並べて祭壇を設け、その中央に神の依代となる大石を据えている。



12-3 玉類／沖ノ島18号遺跡



12-2 沖ノ島17号遺跡遺物出土状況



12-6 三角縁二神二獣鏡／沖ノ島18号遺跡



12-5 擬銘帯内行八花文鏡／沖ノ島17号遺跡



12-4 唐草文縁方格規矩鏡／沖ノ島17号遺跡

原始神道

〜古墳時代の祭祀〜

巨岩きよがんそのものに神が降臨するとされた段階で、I号巨岩を中心とした一六・一七・一八・一九号遺跡と、F号巨岩上に祭壇を設けた二一号遺跡がある。

奉納品は銅鏡、鉄製武器・工具、碧玉製腕飾へきぎょくせいぞくわらじ、玉類などで、当時の古墳の副葬品と共通するところが多い。特に多数の銅鏡は、畿内大型古墳の副葬品に匹敵するもので、ヤマト王権主導による祭祀であることを物語っている。

なお、初期の段階では内行花文鏡ないぎょうけもんきょうや方格規矩鏡ほうかくきぎょうきょうが奉納されており、伊都国王墓である平原王墓に副葬された鏡群と共通し、弥生時代以来の祭祀の流れを汲むものである。

また、百済との国交が開始した三六六年に、百濟肖古王しやうこおうから「鉄鋌てつたね四十枚」が贈られたことが『日本書紀』に記されている。注目すべきは鉄素材としてヤマト王権がもっとも入手しなかったアイテムのひとつである鉄鋌てつたねが、一六号遺跡や二一号遺跡から出土していることだ。福間割畑遺跡一号墳では一一枚重なつて副葬されており、沖ノ島祭祀と対外交渉に関わった宗像君の姿を彷彿ほうぼうとさせ興味深い。



鋤崎古墳

4世紀後半に築かれた全長62mの前方後円墳で今宿古墳群の首長墓系列のひとつ。石室南側に、板石を積み重ねて三角形の出入口を設けている。石室内には箱式石棺、土製棺、木棺が配されていた。

釜塚古墳

5世紀前半に築かれた墳丘径56mの大型円墳。周溝・外堤を含めると90mにも及ぶ。周溝から出土した全長約2mの石見型木製品は、畿内および韓国月桂洞1古墳で出土しているが九州での出土は唯一である。旧海岸線近くに立地しており、ヤマト王権と朝鮮半島の交易のパイプ役を担った首長であったと思われる。



27-1 鋤崎古墳主体部



27-3 5世紀前葉の首長墓／釜塚古墳



27-2 釜塚古墳主体部入口

27-4 石見型木製品  
釜塚古墳

先進文化  
初期横穴式石室の導入

こうして初期ヤマト王権の下で、外交の重要地域として位置づけられた糸島地方は、朝鮮半島の先進文化をストリートに受容できる環境にあった。若八幡宮古墳に副葬された短甲や大刀などにその影響をみる事ができる。

なかでも四世紀末から五世紀初頭、老司古墳（福岡市）、谷口古墳（唐津市）に続き導入されたのが、鋤崎古墳や釜塚古墳にみられる横穴式石室である。これは入口を横に設けることにより、従来の竪穴式石室が一人しか埋葬できなかったのに対し、何度も追葬可能とした画期的変化であった。初期の石室は入口が未発達で竪坑状を呈し、いったん下に降りなければならぬのが特徴である。この初期横穴式石室の源流は高句麗もしくは百濟漢江流域に求められると言われ、海人を介した両地域の交流をうかがわせる。

## コラム《1》 『糸島地方における6~7世紀の装飾武器、馬具出土の背景』

近年、糸島地方では後期(6世紀~7世紀)古墳の調査事例が増加し、装飾性に富んだ武器、武具や馬具などの出土が相次いでいる。これらの出土品はいずれも、高度な冶金技術により製作された優品で、古墳被葬者たちの生前の威信を高めた宝財であることはいうまでもない。特に装飾馬具や装飾大刀はそれぞれ規格性に富み、特徴の連続性や共通性が高いことなどから、ヤマト王権やその周辺の中央氏族により製作、下賜された可能性が高いといわれ、軍事的な役割を担った首長との関係が深いとされる。

当時、倭国は、朝鮮半島の百済をめぐって新羅と対峙し政治的緊張関係にあり、なかでも糸島地方に関連して、556年に、百済王子を警護のため筑紫国の船師と筑紫火君(嶋郡の肥君か)の率いる千名を派遣した記事や、602年に、聖徳太子の弟の来目皇子が撃新羅將軍として軍二万五千を授けられ嶋郡に屯営したとされる記録がみられることから、当地が九州北部における対朝鮮半島の軍事拠点のひとつとなっていた可能性は高い。

前原市の西堂四反田遺跡では、轡金具が納められた楕円形の土坑が発見されている。馬を埋葬した土坑と考えられ、一帯での馬の棲息、さらに馬の飼育がおこなわれた可能性も考えられる。

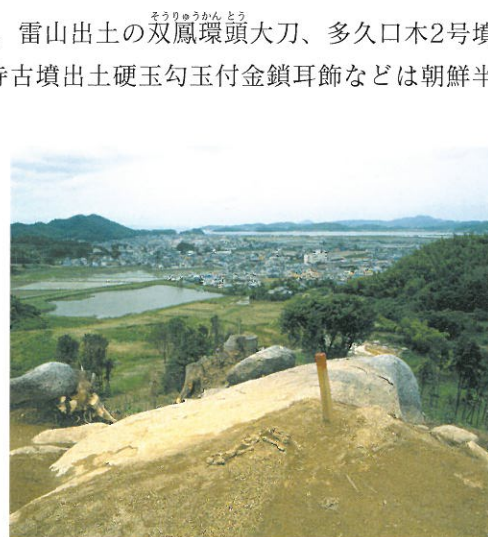
馬の飼育には、渡来系の人々が関わっていたことが推測されているが、雷山出土の双鳳環頭大刀、多久口木2号墳出土の棘葉形杏葉、前原市陣内(大門)古墳出土の垂飾付耳飾や、伝周船寺古墳出土硬玉勾玉付金鎖耳飾などは朝鮮半島から直接的に入手した可能性もあり、今後、糸島地方における渡来系の人々の動向にも注意を払う必要がある。

桃崎祐輔氏は、多久口木2号墳の棘葉形杏葉が朝鮮半島南部で出土する杏葉に類似することに着目し、『和名抄』に記された「怡土郡託社郷」の地名を絡めて、筑前国嶋郡川邊里戸籍に登場する宅蘇吉志の墓である可能性を指摘している。多久口木2号墳が立地する多久川流域では砂魚塚1号墳、坂の下古墳群、香力梶原1号墳からも金銅装馬具が出土しており、桃崎氏の指摘との関連について気になるところである。

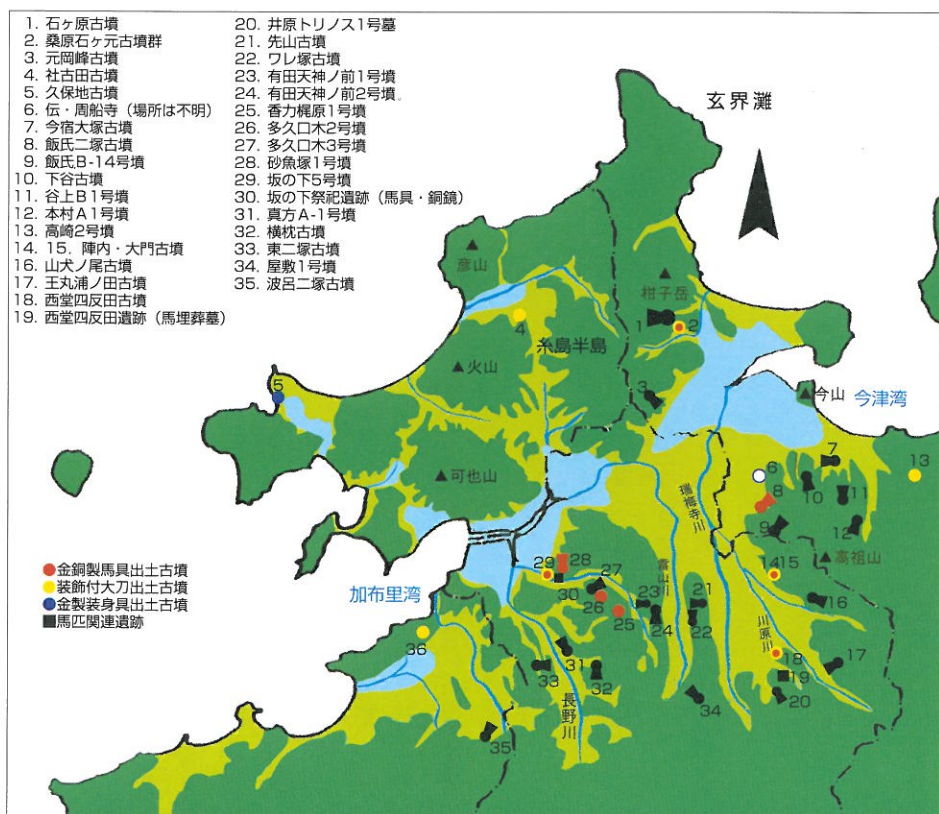
さらに、多久川河口の丘陵上から出土した鍔金具と櫛目文鏡にも注目したい。鍔金具は丘陵頂上の花崗岩露頭のうち最高所に近い平坦な岩上に置かれていた。岩場の隙間に散乱していた須恵器から6世紀後半のものだと推定される。露出する岩の多くは切り出されていたが、当時は馬具の周囲には花崗岩の巨岩が取り囲んでいたものと推定され、まさに沖ノ島岩陰祭祀のミニ版といえる様相を呈していた。

この丘陵から西には多久川河口が、さらに玄界灘に続く内湾への眺望が開けている。河口の東岸には、古墳時代から奈良時代にかけての集落も確認されており、港があったことも想定される。この地から兵を携えて朝鮮半島に向けて旅立つ船の無事を祈る祀りがとり行われたのではなかろうか。

【岡部裕俊】



31-1 岩上から出土した鍔金具/坂の下祭祀遺跡





西暦	中国・朝鮮半島	日本	列島内の主な出来事	糸島の主な出来事	宗像の主な出来事	玄界灘を制したものの
前500年	周	原三國時代	この頃稲作が伝来する	支石墓築造 イト地域に首長層が登場		
前400年	(戦国)					
前300年	古朝鮮			石斧製作 (今山遺跡)		
前200年	秦		(北部九州) 小共同体からクニへ統合始まる (北部九州) クニから国へ統合始まる		(田熊石畑遺跡)	
前100年	前漢	弥生時代	百余国に分かれる	楽浪郡との交易が始まる...交易拠点となる		
0	新		57 奴国王金印を授かる 107 倭国王帥升ら、後漢に遣使	王都の繁栄・歴代伊都国王墓が築かれる (三雲南小路王墓)		
100				(井原鍵溝王墓)		
150	後漢		この頃倭国乱れる			
200	美濃郡・帯方郡	辰韓	この頃卑弥呼を共立	一大率が置かれる 玉作り (澗地頭給遺跡)		
250	蜀	弁韓	239 卑弥呼が魏に遣使 この頃卑弥呼死す		ヤマト王権と連携	伊都国王
300	魏		266 曹与が西晋に遣使	前期古墳が集中して築かれる	(徳重本村2号墳)	伊都県主
350	五胡十六国		366 斯摩宿禰、卓淳国へ行き、使者を百済へ送る 372 百済人久丘ら、倭に七支刀を献じる 391 倭、渡海して百済・新羅を破り高句麗と戦う	初期横穴式石室導入	(田久瓜ヶ坂1号墳)	
400	東晋	古墳時代	413 倭王 東晋へ遣使 421 倭王 魏 宋へ遣使 425 倭王 魏 宋へ遣使 438 倭王 魏 宋へ遣使 443 倭王 魏 宋へ遣使 451 倭王 魏 宋へ遣使 460 倭王 魏 宋へ遣使 462 倭王 魏 宋へ遣使 477 倭王 魏 宋へ遣使 478 倭王 魏 宋へ遣使	交易拠点としての機能が低下	沖ノ島祭祀開始 (東郷高塚古墳) 【沖ノ島岩上祭祀】	
450	宋				津屋崎古墳群築造 (勝浦古墳群) (新原・奴山古墳群)	ヤマト王権
500	北魏	加耶	512 大伴金村 加耶4県を百済に割譲 527 筑紫君磐井の乱 528 筑紫君葛子 糟屋の地を献上 糟屋屯倉設置 536 那津官家設置 このころ仏教伝来 556 筑紫火君、百済王子を本国へ護送 587 物部氏滅亡	この頃肥後南部から肥君が進出 軍事拠点化 (今宿大塚古墳) (西堂古賀崎古墳) (桑原石ヶ元古墳群)	【沖ノ島岩陰祭祀】	宗像君
550	東魏	百済			(須多田古墳群)	
600	北齊		600 遣隋使開始 630 遣唐使開始 645 中大兄皇子・中臣鎌足ら蘇我入鹿暗殺(大化の改新)	602 来目皇子嶋郡進駐 (雷山神籠石)	【沖ノ島半岩陰露天祭祀】 (宮地嶽古墳)	
650	唐		663 百済 白村江の戦いで敗北 664 水城築造 672 壬申の乱 665 大野城築城	大宰府との関係緊密化 「大宝元年」銘木簡 (元岡・桑原遺跡群) 702 川辺里戸籍造籍(大領:肥君猪手)	王権との関係緊密化 この頃神郡となる 654 尼子娘が高市皇子を生む	
700	周	新羅	701 大宝律令の完成 710 平城京遷都		【沖ノ島露天祭祀】	律令政府
750		奈良時代	729 長屋王の変	736 遣新羅使引津亭に停泊 志麻郡で大規模製鉄(元岡・桑原遺跡群他) 756 怡土城築城開始(768完成)	長屋王死後、宗像への規制が始まる	筑紫大宰
800	渤海		794 平安京遷都			大宰府
850		平安時代				
900			894 遣唐使中止		沖ノ島祭祀の終焉	



---

伊都国歴史博物館

---